

(別冊Ⅰ)

令和6年度 事業報告

社会福祉法人 丹波篠山市社会福祉協議会

令和6年度 丹波篠山市社会福祉協議会 事業報告
基本目標「誰もがつながり 支えあうまち 丹波篠山」

令和6年元旦に発生した能登半島地震、追討ちをかけた台風14号による豪雨災害については、社協の全国ネットワークの下、当社協からも職員派遣を行ったほか、災害ボランティア「きずな」と社協事務局が連携しながら、七尾市、珠洲市へ延8日間被災地支援活動を進めました。

また、丹波篠山市商工会青年部と「災害時を想定した相互協力に関する協定書」を締結し、3月19日には『第2回災害ボランティアセンターネットワーク会議』を開催し、構成団体の強みを活かした支援・連携を再確認しました。

令和6年度は、第5次地域福祉推進計画の初年度であり、同計画の進行状況を評価委員会で確認を得ながら、基本目標「誰もがつながり 支えあうまち 丹波篠山」をめざし各事業に取り組みました。

特に全国社会福祉福祉協議会における基本要項の見直しに関し「基本要項2025」の第1次案～第2次案～最終案に至るまで、県社協及び県内社協との検討を重ね、その都度、理事会及び評議員会へ報告し役職員が共有しながら進めました。

丹波篠山市が令和7年度にスタートさせる「重層的支援体制整備事業」については参加支援事業の社協受託に関する協議を重ね態勢づくりを進めました。

買い物が困難な方への支援として、コープこうべと連携し「宅配版移動店舗モデル事業」を立ち上げ、身近な地域での買い物を通じた「見守り」「つどい場」となるよう地域とも協働し、市内15か所で実施しました。地区福祉会議においては、各地域の課題解決に向けて協議をすすめ、岡野地区では、地域と福祉施設が連携した「買い物移動支援モデル事業」を立ち上げ、住民に寄り添った地域づくりに取り組みました。

法人運営については、財政基盤の強化を図り自主財源の確保に努め、募金活動や社協事業には市内の高校生や民間企業と従来のように連携、協力しながら実施しました。

善意銀行へは、多額の金品や物品の預託があり、その意向に沿って地域福祉事業へと活用を図りました。

令和7年5月30日

社会福祉法人 丹波篠山市社会福祉協議会 会長 前田 公幸

計画の柱Ⅰ『身近な地域での福祉のまちづくり』

活動目標Ⅰ「住民同士が気にかける関係づくりをすすめよう」

関 連 事 業	事業報告	
ふれあい・いきいきサロン事業 (1,725,373円)		
目標達成への取り組み	R6事業計画	R6事業実績
年齢や属性を問わず地域住民が気軽に集える場の 立上げや、運営の継続を支援していきます。	ふれあい・いきいきサ ロン実施団体へ補助金 を交付し、活動を支援 します。 (取り組み団体44団 体)	ふれあい・いきいきサロ ン実施団体は、50団体で の開催となりました。 (6団体増)

活動目標Ⅱ「小さな困りごとを地域のみんなで考えよう」

関 連 事 業	事業報告	
生活支援体制整備事業(12,619,209円)		
目標達成への取り組み	R6事業計画	R6事業実績
まちづくり協議会と連携し「地区福社会議」や 「集落福社会議」の開催など、福祉課題の共有や 取り組みを支援します。	地区代表者会議と連携 し、19地区での地区福 社会議の開催を支援し ます。(19地区)	地区代表者会議が43回/19 地区で開催され、地区福 社会議が18地区での開催 を支援しました。1地区は 次年度開催となりました。
	集落等福社会議の開催 につなげます。 (6地区)	地区福社会議において、 集落福社会議の開催に向 け取り組みました。 篠山、畑、後川、西紀 北、味間、古市
	困りごとのニーズ把 握、地域資源とのマッ チングや情報提供に取 り組みます。	地区担当職員として社協 職員が地域へ出向き、各 地区で開催される福祉関 連会議に出席し、情報の 収集、提供に努めまし た。 出席事業：地区ミーティ ング、地区防災訓練等
	第3版「地域の宝物リ スト」を発行します。	各自治会等のご協力のも と第3版「地域の宝物リス ト」を発行しました。 2,000冊
	住民、社会福祉法人や 企業と連携し、見守り や買物、移動支援など、 課題解決の取り組みを 支援します。	自治会でのつどい場を活 用し、コープ買物移動店 舗や、岡野地区買物移動 支援の取り組みを支援し ました。

	避難に支援が必要な方の災害ケアプラン作成事業に取り組みます。 (15件)	プラン作成対象者の見直しのため、市、地域包括支援センターにおいて次年度に向け協議を実施。
地域の福祉課題の解決に向けた、住民、専門職、行政、企業等と多様なネットワークをつくりま す。	包括的支援事業、地域づくり事業、参加支援事業やアウトリーチ等を通じた継続的支援事業を柱とする重層的支援体制整備事業に取り組みます。	重層的支援体制整備事業の参加支援事業受託に向け、研修会への参加及び体制づくりをすすめました。
	民間企業やNPO法人等とネットワークを強化し、地域貢献活動を実施します。移動販売車による支援2箇所	コープこうべと連携し、集落における「つどい場」を活用した宅配版移動店舗お試し事業を実施しました。 (市内15箇所)

関 連 事 業		事業報告	
福祉委員活動事業 (1,181,068円)			
目標達成への取り組み		R6事業計画	R6事業実績
まちづくり協議会地区単位(19地区)で福祉委員連絡会を開催します。		まちづくり地区単位で福祉委員連絡会を開催します。	まちづくり地区単位で福祉委員連絡会は、4地区での開催となりました。
		福祉委員の全体研修会、スキルアップ研修会、リーダー研修会を開催します。 (計3回)	各地域での福祉委員活動を推進するため、全体研修会、スキルアップ研修会、リーダー研修会を各1回(計3回)開催しました。
自治会長、民生委員・児童委員、民生・児童協力委員との連携した活動の体制づくりを支援します。		民生委員児童委員協議会との意見交換会を開催します。(1回)	民生委員児童委員協議会支部長会と福祉委員連絡会理事との意見交換会1回を開催し、情報交換の機会となりました。

関 連 事 業	事業報告	
福祉学習推進事業（185,078円）		
目標達成への取り組み	R6事業計画	R6事業実績
自治会や企業を対象に、関係機関と連携し福祉学習会の開催を推進します。 市内の小中高の児童及び生徒に福祉学習を推進することにより、ボランティア活動や地域づくりに参画する人材を育成していきます。まずは、小中学校や教育委員会の連携を深める活動を強化していきます。（小14校、養1、中5校、高3校）	自治会で福祉学習を開催します。（1回）	身近な地域において、介護や介助に関する講話、講義による福祉学習を開催しました。（6か所）
	市内学校で福祉学習を開催します。（11回）	市内学校で、車いすやアイマスク等の福祉学習を開催しました。（9回）
	福祉ジュニアカレッジを開催します。（1回）	小学生を対象に、バリアフリーに関する講話とパラスポーツ体験による福祉ジュニアカレッジを開催しました。（1回）
	企業・事業所で福祉学習を開催します。（1回）	地域つながるミーティングに参加する企業・事業所に福祉学習開催に向け啓発しました。
福祉に関する多様な学習を推進します。	人権推進団体や当事者等と連携し多様な福祉学習を提案します。	車いすやアイマスクの体験だけでなく、高齢者や障がい者疑似体験も含めた福祉学習プログラムの検討を行いました。

計画の柱2 『地域を支える担い手の育成』

活動目標3 「必要な人に届くボランティアの力を育もう」

関 連 事 業		事業報告
・ ボランティア活動支援事業 (957,557円) ・ ボランティア活動費補助事業 (362,840円) ・ 手話・音訳奉仕員養成受託事業 (1,555,600円) ・ 介護支援ボランティアポイント制度事業 (67,229円) ・ 見守り支援サポーター事業 (223,583円)		
目標達成への取り組み	R6事業計画	R6事業実績
地域のニーズに応じた養成講座を開催します。	防災講座、片付け講座などのボランティア養成講座を開催します。 (6講座)	保育、傾聴、防災、清掃福祉レクリエーション等のボランティア養成講座を開催しました。 (6講座)
利用者本位のサービスの提供にむけて、養成講座を開催します。	見守り支援サポーター養成講座を開催します。 (3回)	見守り支援サポーター養成講座を開催しました。 (3回) 新規登録サポーター9名
福祉ニーズの把握や地域活動者の発掘とリーダーを育成し、地域のつながりづくりを支援します。	ボランティアグループの活動を補助し、グループ活動を支援します。 (21団体)	ボランティアグループの活動を補助し、グループ活動を支援しました。 (22団体)
若年層のボランティア活動者のへの関心を高め、支え合いの活動へつなげます。	手話奉仕員の養成のため入門、基礎課程の講座を実施します。 (夜間 1回44シリーズ)	手話奉仕員の養成のため入門課程参加者18名、修了者16名、基礎課程参加者19名、修了者18名となりました。 (夜間 1回44シリーズ)
	音訳奉仕員の養成のため音訳奉仕員養成講座を実施します。 (8回シリーズ)	音訳奉仕員の養成のため音訳奉仕員養成講座を6回シリーズでの開催とし、参加者17名で、内3名がボランティア活動の意向をお持ちでした。
	介護保険施設等でのボランティア活動を支援します。 (会員数55名)	ボランティアポイントかわら版を発行し、介護保険施設等でのボランティア活動の周知と支援を行いました。 (会員数47名) (かわら版発行6回/年) (ポイント実績154ポイント)

ボランティア活動の関心を高め、ボランティアセンター機能を充実させます。	ボランティア室の活動拠点づくり等、関係団体と意見交換し、その充実に努めます。	フードドライブ活動による食品保管場所の確保を含めボランティアの活動拠点のあり方について協議継続中。
--	---	--

計画の柱3 暮らしを支えるしくみづくり

活動目標4 「住み慣れた地域で、いきいきとした生活が送れるよう、
福祉サービスを充実させよう」

関 連 事 業	事業報告	
・ 東・西部地域包括支援センター受託事業 (87,098,404円) ・ 居宅介護支援公益事業 (35,536,507円) ・ 訪問介護サービス事業 (63,226,044円) ・ 障害者総合支援事業 (25,068,144円) ・ 相談支援事業所 (12,132,129円) ・ 見守り支援サポーター事業 (223,583 円) ・ 見守り弁当サービス事業 (3,525,015円) ・ 外出支援サービス受託事業 (4,607,560円) ・ 介護機器貸出事業 ・ 友愛訪問事業 (538,544円)		
目標達成への取り組み	R6事業計画	R6事業実績
利用者が望む場所で可能な限り生活が続けられるよう、介護支援専門員やサービス事業所、関係機関が連携して介護保険事業を進めます。	各サービス事業所の専門性を発揮し、介護負担の軽減に努め、高齢者、障がい者の日常を支えます。	高齢者、障がい者等の各サービス事業所の専門性を発揮し、介護負担の軽減に努め、高齢者、障がい者の日常を支えました。
目標達成への取り組み	R6事業計画	R6事業実績
複雑化した支援ニーズに対し、関係機関と連携して支援を進めます。	関係機関と情報の共有を行い、相談支援を行います。また「個別地域ケア会議」を開催し、個別ケースの支援の充実を図るとともに、地域に必要な社会資源の開発に向け取り組みます。	個別地域ケア会議53件に取り組み、個別ケースの支援を進めました。
PRチラシの作成や様々な場所での発信により、地域包括支援センターの周知に努めます。	高齢者の総合相談窓口としての周知として、PRチラシを全戸配布します。	高齢者の総合相談窓口の周知として、PRチラシを全戸配布しました。 (PRチラシ1回) (センターだより12回)
自立支援の視点に基づき、多職種連携、地域資源の収集や活用を行い、多様なサービスを一体的に提供できるケアマネジメントを実施します。	要支援および事業対象者のマネジメントを行い、介護保険法に基づくケアプランを作成します。 (東部120名、西部165名)	介護保険法に基づくケアプランを作成しました。 (東部 142名) (西部 189名)

生活課題の解決に向け、地域包括支援センターと協働し、個別地域ケア会議等で課題の解決を図ります。	特定事業所加算取得の事業所として、質の高い支援に努めます。	特定事業所加算取得の事業所として、質の高い支援に努めました。地域包括支援センターからの受託件数3件
ケアマネージャー、ホームヘルパーなどの専門職の若い世代の関心を高め、人材確保と育成に取り組めます。	SNSを活用し福祉関連情報提供し、介護職の周知と人材確保に努めます。	SNSを活用し福祉関連情報提供や、福祉人材募集フェアに2回参加し、人材確保に努めました。 (来場者1名)
利用者のニーズに沿ったサービスを提供します。	介護保険法に基づく、ケアプラン作成と訪問介護サービスを提供をします。(居宅介護支援利用者150名、訪問介護利用者90名)	居宅介護支援利用者156名、訪問介護利用者83名へのケアプラン作成と、訪問介護サービスを提供をしました。
専門機関など福祉サービス事業と連携を図り、相談しやすい窓口として、利用者の自立した生活を支援します。	障害者総合支援法に基づく障がい者、障がい児のケアプラン作成と居宅介護サービスを提供します。(相談支援利用者180名、居宅介護利用者32名)	相談支援利用者180名、居宅介護利用者34名へケアプラン作成と、居宅介護サービスを提供しました。
利用者の自己決定を尊重し、利用者本位のサービスを提供します。	見守り支援サポーターによる家事支援を行います。(利用者35名)	見守り支援サポーターによる買い物や調理等による家事支援を進めました。(利用者30名)
	高齢者世帯等へ見守りを兼ねた昼食支援を行います。(利用者170名)	利用者176名への見守りと昼食配食支援を進めました。
	弁当事業所の選択の幅を提供できるように社協-事業所間で調整を行います。	弁当事業所の選択についてサービス提供事業所との調整を行い、単独選択地域が4地区から1地区へ減少しました。
	公共交通の利用困難な方の通院を支援します。	利用者数14名の通院を支援しました。
	車いすを無料(1週間以内)で貸し出します。	貸出件数49件でした。
友愛訪問を通し、見守りや困りごとの相談のきっかけを提供します。	民生委員による見守りが必要な方へ友愛訪問を実施します。(友愛訪問対象者1,400名)	友愛訪問対象者1,344名への民生委員による友愛訪問を実施しました。

活動目標5「暮らしを支えるしくみをつくろう」

関 連 事 業	事業報告	
・心配ごと相談所事業（119,292円） ・生活福祉資金貸付事業（6,303,243円） ・緊急貸付資金事業（336,500円） ・生活困窮者等支援給付事業（-円） ・生活困窮者支援体制強化事業（事業費は生活福祉資金貸付事業に含む）		
目標達成への取り組み	R6事業計画	R6事業実績
相談しやすい場を提供し、周知に努めます。	心配ごと相談所を開設します。（54回／年）	民生委員、専任相談員による心配ごと相談所を開設しました。（55回／年）相談件数11件（0.2件／回）
困りごと解決に向けて、相談者、各機関、行政と共に考えます。	生活困窮者対応相談窓口として「ほっとかへんネットワーク」を配置し、複雑・多様な生活課題に対応します。	生活困窮者対応相談窓口として「ほっとかへんネットワーク」を配置し、貸付金の償還指導や複雑・多様な生活課題に対応しました。特例貸付件数139件
	他の貸付制度が利用できない低所得世帯等へ生活福祉資金により支援します。（貸付件数20件）	生活福祉資金の貸付件数1件について支援しました。
	他の金融機関で貸し付けを受けられない低所得世帯へ緊急貸付資金により支援します。（貸付件数44件）	緊急貸付資金として、総貸付件数31件、新規貸付件数9件を支援しました。
	貸付制度では以降の生活が見通せない場合など、限定的な給付を行い支援します。	貸付制度では以降の生活が見通せないケースとして、給付件数1件に対応しました。

関 連 事 業	事業報告	
・ファミリーサポートセンター補助事業 (5,981,843円) ・子ども一時預かり事業 (368,831円) ・篠山児童クラブ運営受託事業 (28,018,644円)		
目標達成への取り組み	R6事業計画	R6事業実績
のびのびと安心して子育てできる環境づくりに向けて活動を進めます。	ファミサポ協力会員による援助活動を行います。 (200回/年)	育児の支援を受ける方、援助を行う方等を組織化し、ファミサポ協力会員による子育て援助活動を行いました。 (485回/年)
	子ども一時預かり事業により支援します。 (延べ利用者数180名)	ファミサポ協力会員等の協力を得て、子ども一時預かり事業を実施し子育て環境の充実を図りました。 (延べ利用者数224名)
	篠山児童クラブにより支援します。 (利用児童数129名)	保護者の就労等による子育ての両立を支援するため、篠山児童クラブを受託し放課後児童の健全育成に取り組みました。 (利用児童数137名)

関 連 事 業	事業報告	
・フードドライブ、フードパントリー事業 (371,174円) ・丹波篠山・つながろうフェスタ2024 ・社会福祉大会 (574,215円)		
目標達成への取り組み	R6	
住民、団体、企業等がすすんで参加できる助け合いの活動を推進します。	丹波篠山・つながろうフェスタの開催 (1回/年) 令和6年9月28日 (土) 丹波篠山市民センター	丹波篠山市社会福祉大会及び赤い羽根共同募金運動プレイベントを共同開催とし、来場者700名及びスタッフ関係者とながりました。
住民と協働した生活支援サービスの充実を図ります。	フードドライブによる支援 (2回/年)	食料品1,903品 日用品562品のご協力をいただきました。

活動目標6「その人らしい生き方を支援しよう」

関 連 事 業		事業報告
日常生活自立支援事業（権利擁護の推進） （7,005,238円）		
目標達成への取り組み	R6事業計画	R6事業実績
本人の意思と権利を尊重し、希望に沿った支援に取り組みます。	判断能力に不安のある方の支援（利用者数45名）	利用者数37名への支援を生活支援員（10名）とともに支援を行いました。
	多様化するニーズに対応するため、関係機関との連携を強化します。	ウィズ・ユーなど権利擁護関係機関等との連携の下、支援を進めました。
	研修会に参加し、職員と生活支援員の資質向上に努めます。	権利擁護に関する研修会に参加し、職員と生活支援員の資質向上に努めました。（研修5回）

関 連 事 業		事業報告
福祉団体育成事業（1,170,626円）		
目標達成への取り組み	R6事業計画	R6事業実績
各団体が自主的な組織運営と魅力ある活動になるよう支援します。	老人クラブ、身体障害者福祉協議会、手をつなぐ育成会の活動を支援します。	老人クラブ、身体障害者福祉協議会、手をつなぐ育成会の年間活動を支援しました。

関 連 事 業		事業報告
・ ひきこもり支援事業（344,357円） ・ 要保護児童への支援事業（上記に含む）		
目標達成への取り組み	R6事業計画	R6事業実績
課題を抱えた人の自立・社会参加を図るために、住民の理解を深めて地域における生活環境の改善に取り組み、関係各所と連携して支援体制の充実を図ります。	気軽に立ち寄り、悩みや話ができる「つどい場」を開催します。 （12回／年）	「つどい場」を12回開催しました。
	夏季、冬季の長期休みに「ささっこ食堂」を開催します。（2回／年）	夏季、冬季の長期休みに支援が必要な世帯の子どもを対象に「ささっこ食堂」を実施しました。 （8日／年、延べ48名）
	夏季、春季等の長期休みに「ささっこ宅配弁当」を実施します。 （5日／年）	夏季、春季等の長期休みに支援が必要な世帯の子どもを対象に「ささっこ宅配弁当」を実施しました。 （5日／年、延べ82食）

社協目標Ⅰ 「住民から信頼される社協をつくります」

関 連 事 業		事業報告
・ 法人運営事業（96,773,355円） ・ 役職員の資質向上のための研修会事業 ・ 高福祉維持のための職員を支える事業 ・ 大規模自然災害、感染症に対する事業		
社協の取り組み	R6事業計画	R6事業実績
理事会（執行機関）や評議員会（議決機関）の持つ機能が、より発揮されるよう活性化を図ります。	理事会、評議員会を開催及び役員研修を実施します。	理事会、評議員会を開催及び役員研修を実施しました。 （理事会5回、評議員会4回、役職員研修会1回）
中期経営計画の策定に取り組めます。	策定に向け、情報収集や体制を整えます。	中期経営計画策定に向け、役職員を対象に研修会を開催しました。 （役職員研修会1回）
既存事業の見直しや新規事業の開発に努め、多様な生活・福祉課題へ対応できる法人の基盤整備を行います。	既存事業の見直し、新規事業について検討します。	重層的支援体制整備事業関係の体制づくりを含め協議、検討しました。
子どもの意見を聞く場を設け、地域福祉推進計画及び事業計画に反映します。	福祉学習推進事業と連携し、市内の学生の意見を聞く場を設けます。 （高校1校、中学校1校、小学校3校）	福祉体験学習の開催を通じて、子どもの思い、意見を聞く場を設けました。（9回）
職員が安心して業務に従事できるよう、安全衛生を向上させ、ITやクラウドツールの導入を検討し、業務の効率化を図るなど、職場環境の整備を行います。	安全衛生委員会を開催します。（6回／年） 職員の意見を聴取し、ITやクラウドツールの導入について検討します。	職場の安全や衛生について検討しました。 （安全衛生委員会5回、安全衛生研修会1回）
人材育成計画を策定し、計画的な人材育成に取り組めます。	策定に向け、情報収集や体制を整えます。	兵庫県社会福祉協議会の「職場研修アドバイザー事業」を活用し、計画策定に向け、検討しました。（派遣3回）
ほっとかへんネット丹波ささやま（市内社会福祉法人11法人が平成28年2月発足）の事務局を担い、地域公益活動を推し進めます。	ほっとかへんネット丹波ささやまとして、地域の生活・福祉課題の解決に取り組めます。	ほっとかへんネット丹波ささやまとして、地域の生活・福祉課題の解決に取り組みました。またソーシャルワーク実習として実習の受け入れについて連携事業として取り組みました。

協定を締結した組織や災害ボランティアグループの役割を整理し、支援体制の充実に向け、ネットワーク会議を通じた体制づくりを進めます。	協定を締結した組織や災害ボランティアグループとの、ネットワーク会議を通じた体制づくりを進めます。	協定を締結した組織や、災害ボランティアグループによる災害ボランティアセンターネットワーク会議を開催しました。また丹波篠山商工会青年部と災害時の協定を締結しました。
社協独自の防災訓練を実施します。	災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルに従い訓練を行います。	災害時職員招集訓練を1回実施し、連絡体制や活用ツールについて共有を図りました。
災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルを必要に応じて見直します。	災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルを必要に応じて見直します。	協働型災害ボランティアセンターの運営について、ネットワーク会議を重ねつつ必要な見直しを進めることとします。

社協目標 2 「社協の魅力を伝えます」

関 連 事 業		事業報告
社協関連情報の発信に関する事業 (635,822円)		
社協の取り組み	R6事業計画	R6事業実績
住民が情報とつながるツールが多様化している状況を踏まえ、常に新しい情報発信の方法を模索します。	広報部会を立ち上げ、 情報発信について検討 します。	広報部会を立ち上げ、情 報発信のあり方について 検討しました。 (広報部会5回、広報研 修会1回)
社協の活動内容のみならず、地域の福祉に関する さまざまな情報をわかりやすく提供できるように 工夫します。	広報部会を立ち上げ、 情報発信について検討 します。	広報部会において、社協 ささやまの刷新に取り組 みました。
住民に届けたい情報をわかりやすく、様々なツ ールを活用し、幅広い世代に向けて発信します。	SNSを活用し、情報 発信します。 広報部 会を立ち上げ、情報発 信ツールについて検討 します。	SNS (Instagram、 Facebook、YouTube) を活 用し、情報発信しまし た。広報部会を立ち上 げ、情報発信ツールにつ いて検討しました。 (記事投稿15件/月)

社協目標 3 「地域福祉活動の財源確保に努めます」

関 連 事 業	事業報告	
・ 善意銀行運営事業 (1,390,670円) ・ 赤い羽根共同運動 (7,342,461円) ・ 歳末たすけあい運動 (3,131,104円) ・ 喫茶ふれあい収益事業 (5,587,266円)		
社協の取り組み	R6事業計画	R6事業実績
広く金品の預託を受け付け、預託者の意思に基づいた配分、払い出しを行います。	善意の金品預託を受け、預託者の意思を尊重した払い出しや地域福祉活動及び基金に積立て地域福祉事業の推進に活用します。	金銭預託37件、物品預託88件の善意の金品預託を受け、預託者の意思を尊重した払い出しや地域福祉活動及び基金に積立て地域福祉事業の推進に活用しました。
会費納入者や寄付者に対し広報誌やホームページ等を活用して寄付目的、資金使途を広く周知し透明性の確保に努めます。	赤い羽根共同募金通信の発行やカレンダーなどのオリジナル資材を活用し、募金活動の周知と理解を図ります。	赤い羽根共同募金通信の発行やInstagram、カレンダーなどのオリジナル資材を活用し、募金活動の周知を図りました。
直接現金による募金活動に加え、インターネット募金や募金百貨店プロジェクトを通じて、より身近で気軽に寄付できる仕組みを検討します。	募金百貨店プロジェクトを含め新たな募金活動について検討します。 (募金百貨店13事業所)	募金百貨店プロジェクトやインターネット募金など新たな募金活動の取り組みを進めました。 (募金百貨店13事業所)
施設利用者や地域住民へ、憩いの場と食事を提供し、安心でき、利用しやすい環境を提供します。	利用者30名/日 程度	喫茶ふれあいを運営し、来館者の憩いの場として食事を提供しました。 (利用者30名/日)
社会的ひきこもり就労支援事業と要保護児童への支援事業(ささっこ食堂・弁当)の支援を行います。	社会的ひきこもり就労支援事業1名 要保護児童への支援事業はささっこ食堂・弁当の実施回数に準ずる	社会的ひきこもり就労支援事業の受け入れについて関係機関と調整を行いましたが、実際の受け入れまでには至りませんでした。